

寺報

No.611

平成30年7月

蓮華寺
行

御聖訓

親おやに良よき物ものを与あたえんと思おもいつ、
 せめてする事ことなくば、一日いちにちに二三にさん
 度ど笑ほほえみて向むかえとなり。

『上野殿御消息』



(解説)

五月は母の日で、「お母さんありがとう」、六月は父の日で「お父さんありがとう」と書かれた広告がデパートや新聞などで頻繁に目につきました。そして、その宣伝にのせられて、何かしらのプレゼントを買い求めた方がたくさんいたようです。しかし、ただ儀礼的にご両親に品物を上げるのではなく、真心を込めてプレゼントをするのでなければそれは意味のない事でしょう。日蓮大聖人は、どんな高価な品物を上げるよりも、親が一番喜んでくれるのは、子供の笑顔であると教えています。様々な事情により、たとえ品物を上げる事が出来なくても、一日に二度か三度の笑顔を見せて上げればそれこそが素晴らしい親孝行なのだという事です。修行の一つに、人々の為に我々が出来る事をさせて戴くという「布施行」がありますが、その中にも笑顔を以て接する『和顔施』が説かれています。どうぞ、皆様もご両親だけでなく、出来るだけ多くの人に笑顔の行を積むようにしていきましょう。

『江戸千家』

先日、当山で茶道『江戸千家』青森支部によりまず、お茶会と茶筌供養が執り行われました。

『江戸千家』の祖といわれる【川上太白】は、「茶道即ち法華経」を信条とした日蓮宗の熱心な信者として有名です。

今般は、この【川上太白】についてお話しします。

【川上太白】は和歌山県の新宮藩士の家に江戸時代の享保四年（一七一九）に生まれ、十六歳で京都の表千家七代『如心齋宗佐』の弟子となりました。

門下生の中でも抜群の力量を現わし、三十二歳の時師匠より千家茶道の奥義の伝授を受け、単身江戸に旅立たれたのでした。

その後約六十年の間に、江戸の茶道界を千家流に改流させた程のめざましい活動をした方です。

江戸ではその努力の結果、「田沼意次」や大名の「嶋津氏・毛利氏」などが次々と入門し、江戸の茶道の中心となったのでした。

【川上太白】は最初は「茶道と禅とは一体不二」の教

えの元、京都大徳寺にて座禅修行をし『太白』という名を戴いたのでした。

しかし、その後日蓮大聖人の御教えにふれ、自らも積極的に勉強し、法華経こそが最高の教えであると確信し、茶道即ち法華経として悟ったのでした。

そして、当時の法華宗に改宗し、日常も文字通り行学二道の行動を行った、熱心な法華経の信者となったのでした。

【川上太白】は、何事も自然に常の心を失わない（常（つね）の一字を悟った茶人として、これを生涯の茶の湯の基本とした人であり、この精神を体得する為にと、出来るだけ多くの人々との交流を深めたそうです。

また、明和年間に起きました大火で、菩提寺であります谷中の『安立寺』が炎上した際も、その修復に尽力し、本堂に自ら「常親山」の山号額を揮毫したといわれます。

七十歳で身延山に登詣し、「うら富士や かかる里にも 美人草」という句も読んでいます。

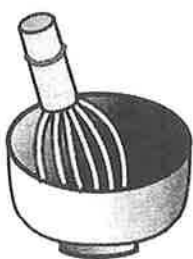
更に、七十二歳の時には、江戸雑司ヶ谷の『鬼子母神』境内に、また七十八歳の時には、故郷新宮市の本廣寺『鬼子母神堂』の境内に、それぞれ法華経を一字ずつ一石に書き入れました経石を六万九千三百八十四個埋納し、その上に『奉書写妙法蓮華経』と書きました寶塔を建てて先祖の供養をしています。

これは、茶人【川上太白】が、いかに熱心なる日蓮宗の信者であったかがお分かりになると思います。

その【川上太白】も文化四年（一八〇七）十月、八十八歳で隠宅の神田明神内の蓮華庵にてお亡くなりになりました。

法名（戒名）は「弧峰不白日祥居士」といい、お墓は谷中の『安立寺』に埋骨され、そのお墓の近くには門弟達のお墓もたくさん並べられ、師匠と共に法華経の信者としてお祀りされているのです。

そして、今日までその子孫により、代々信仰が受け継がれているそうです。



檀信徒研修会のお知らせ

七月二十一日(土)

聖典の読誦と唱題行

担当・・・住職上人

*『聖典の読誦（三十分）と唱題行（三十五分）』

☆お題目は七百回以上唱えられます。

時間：午後七時より

場所：小本堂（イス席）

持参品：聖典（お経本）・事務所にて、数珠

*月一度の修行ですので、どうか皆様もこの機会を逃さずお経とお題目唱え、頑張つて参加して下さい。お寺で、気持ちを含め、大きな声でお勤めをしましょう。

また、太鼓を叩いて、精神を統一してお題目を唱えてみて下さい。

*自分の懺悔（反省）・罪障消滅・または家内安全・当病平癒などの祈り、先祖や仏様の供養の為に拝みましょう。

大切なお題目受持

お盆の棚経のお願い

毎年蓮華寺では、お盆の供養の為に棚経たなきょうを八月の十四日(火)より十六日(木)まで『旧市内』、十七日(金)より二十日(月)までは、皆様からご依頼がありました『新市内』の檀家さんを回っております。一週間で回れる軒数は、僧侶の人数の関係から限られてしまいます。

特に最近では、市内の環境や道路事情により新市内の檀家が増え、十七日以降の棚経のご依頼が多くなってきています。

しかし、十七日からは、お盆中に去くなりました方々の葬儀等も行う状況から、あまり多くの家庭は回れません。

そこで、当山では棚経を八月一日(水)からでも回れるようにしております。

どうか、棚経をご希望の方は、お早目にお申し込みの上、日時を決めて戴くようにお願い致します。

なお、例年通りの日時にお伺いする方は、そのまま結構です。

どうかご協力をよろしくお願い致します。

新たに蓮華寺の檀家を希望する方へ！

希望する方へ！

新しく『廣布山蓮華寺』の檀家になりたいと希望する方は、特別の手続きなどはありませんので、入檀の誓約書を書いて戴き事務所までお申込み下さい。

いつでも登録出来ます。

その際に献金はなく、当山を維持運営します護持会費(年六千円)のみを納めて戴きます。

また他宗から改宗する場合も、同様ですのでご安心下さい。

日蓮宗に改宗する場合は、必ず戒名を変えて戴きますが、その際も無料で普通戒名を授けております。

しかし、それ以上にご希望がある場合は、お寺にご相談下さい。

ただし、ご本尊(大曼荼羅)・日蓮大聖人のご尊像・過去帳・仏具などの必需品は、各家で実費でそろえて戴きます。

現代は信教の自由が保障されていますので、ご自分の意志で信仰したい宗派を決める事が大事でしょう。

『位牌壇』募集中！

★お寺に『位牌壇』がありますと、毎朝必ずお題目が唱え続けられていきますので、皆様の御先祖や仏様が今後代々に渡りご供養されていきます。

★仏様の御命日に当たる時に、旅行や諸用などで不在でも、ご予約戴ければ『位牌壇』の前に追膳をお上げしますし、またお経も唱えさせて戴きます。

★特に青森では冬期間、お墓参りが出来ませんので、『位牌壇』がありますと、常にお参りが出来ます。

★やむなくご親戚やご友人に譲渡する場合は、お寺にご連絡下さい。

★分割は三年間の内に、回数(最長三十六回)はご相談下さい。

『聖徒団会員』募集！

毎月ついたちの「盛運祈願会」の中で、住職上人が各会員の『家内安全』をご祈願致します。

その他、大本堂御寶前のお花、皆様にお配りする新聞『聖徒タイムズ』・寺報等の援助などに活用します。

会費・・・年額二、四〇〇円(月二百円)

『提灯』の募集！

当山で「鬼子母神大祭」「お正月」「御会式」に下げます『提灯』(トローロー)を限定で募集致します。

作成価格は八千円、年間の管理費が二千円となりますので、初年度のみ計一万円となります。

霊神符を持ちましょう！

最近は何いもよらない災害や事故、事件が多発してたくさんの方々が巻き込まれています。

皆様も「私だけは大丈夫」というお考えはお止めになりまして、どうぞ素直に毎月、霊神符(お守り)を肌身離さずお持ちになります様お願い致します。



十三日(日蓮大聖人の月命日)の

お勤めには必ず参拝しましょう！

毎月十三日 午後一時より

懺悔文を読みましょう！

懺悔とは懺悔滅罪の事をいい、いわゆる自らの罪を滅して、心から反省して我々の本来持っている仏様の心に戻るという意味です。

キリスト教ではザンゲと言いますが、仏教読みでは濁らずザンゲと発音します。

我々がこの世に生を受けて以来現在に至るまで、おそらく罪を犯した事がないという人はないでしょう。

皆様がお持ちの聖典（お経本）の四十七ページに説かれています『懺悔文』の罪には、どんな方でも関わりあいがあるはずで。

よく、「一生懸命祈るのに願いが叶わない、あの寺（神社）は何にも御利益がない。」などといっている人に限って、懺悔という事を忘れているのです。

現在の罪だけでなく、過去からの例えば前世や先祖からの罪も受け継いでいるかもしれません。

そういう事をないがしろにして、唯ひたすら「病気を治してくれ」「商売繁盛させてくれ」と祈願しても中々成就するものではありません。

やはり順序を経て、しっかりと先祖・仏様への供養を行い、自分の罪を懺悔し、そして祈願をする事が大事なのではないでしょうか。

しかし「反省」と口で言うのは簡単ですが、本当の懺悔とは口だけでなく心も伴っていないければなりません。

我々は、本来これ以上罪を作つてはいけませんので、わがやが、如何せん、そこは凡夫の身ですから、わずかながらも毎日罪を犯しているのが現状です。

その点を良く考えてみますと、大罪・小罪に関わらず自ら懺悔滅罪を実行していく事が大切なのです。

毎朝仏壇に向かい、あるいはお寺の朝のお勤めの中でも毎月一日の『盛運祈願会』と、我々にはいつでもその機会があるわけですから、何とか頑張ってみてはいかがでしょうか。

ご自分の罪障は自ら消し去り、そして次の代には残さないようにしなければなりません。

どうか、『懺悔文』と法華経、更にお題目の力を以て因縁罪障を消滅しようではありませんか。

精進あるのみです。

「永代供養堂」からのお知らせ

当山会館の三階にあります「永代供養堂」は、今後、後を見る事が出来ない仏様をご供養する所です。

でも、まだご健在の施主の方や親戚、ご友人の方が仏様の為にお供物を各自上げています。

しかし、現状のお位牌の壇に上げるのでは狭く無理がある状態です。

そこで、今般、壇の前に供物台を三つ用意致しましたので、今後はこの台をご利用して頂きますようお願い致します。

なお、この「永代供養堂」では、毎朝僧侶がお経を上げ、過去帳に明記されましたご命日には、お戒名を読み上げし、また先祖代々のご供養は、お申込みになられた日を縁に読み上げをしています。

そして、蓮華寺のお寺が続く限り、永遠にご供養して参ります。

(注)詳細は、当山事務所までご相談下さい。

☎017-776-5840

☆ 霊断

檀信徒の皆様で、日頃から何か困り事や悩み事がありましたら、迷わずに蓮華寺までご相談下さい。

日蓮宗に伝わる秘法『霊断』にて当山僧侶が解決、ご指導致します。

なお、宗旨宗派は問いません。

秘密厳守ですので、どうぞご安心下さい。

霊断は必ずご予約下さい。 ☎776-5840

【相談料は原則として一件三千円となります】

お寺の定例のお勤め

- ◎ 『盛運祈願会』 (一日) 午後一時より
- ◎ 『日蓮大聖人の御命日』 (十三日) 午後一時より
- ◎ 『朝のお勤め』 (毎朝) 午前六時半より
- ◎ 『龍神様・七面様』 の日 (十九日) 朝のお勤め中
- ◎ 『最上稲荷様』 の日 (二十二日) 朝のお勤め中
- ◎ 『鬼子母神様』 の日 (二十八日) 朝のお勤め中
- ◎ 『大黒様』 の日 (甲子の日) 朝のお勤め中

自由に参拝して下さい！

七月の行事

一 日(日) 『盛運祈願会』 午後一時より

- ・ 毎月のお守り【霊神符】の交換日です。
- ・ 必ずお勤めに参拝し、お守りを戴きましょう。
- ・ 聖典(お経本)と数珠は必ずご持参下さい。



十一日(水) 鬼子母神小祭 朝のお勤め中

十三日(金) 『日蓮大聖人の御命日』 午後一時より

- ・ お経 如来神力品第二十一 (訓読・日本語読み)
- 如来寿量品第十六 (真読・漢字読み)
- ・ 日蓮大聖人様へのご報恩を忘れずに参拝し、一緒に
お経とお題目を唱えましょう。

二十一日(土) 檀信徒研修会【唱題行】 午後七時より

三十一日(火) 甲子きのえね【大黒様の日】 朝のお勤め中

☆奉仕のお知らせ

二 日(月) 『鬼子母神大祭』の後片付け

・ 教宣部男女 午前十時より

(注)例年ですと、鬼子母神様の大祭の次の日が、後片付けになります。今年はずいぶん「盛運祈願会」と重なり、奉仕活動が無理だという事で、二日の奉仕となりましたので、お間違いないようお願いいたします。

※『鬼子母神大祭』は行事ですので、後片付け等が大変です。

※部員の方は必ず、また部員以外の方でも是非ともご奉仕をよろしく願います。

※時間までご集合下さい。

奉仕部長・山田兼補 伝道部長・小野正春
教宣部長・杉淵昌三

心を込めてご奉仕しましょう